

# つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

## 雑司が谷の地下に眠る中世の道



その存在も忘れられて、住宅地の下に眠っていた  
中世の道路状遺構（中央の黒い部分が路面）

路面電車が走り、中世から続く鬼子母神堂や古刹が有名で静かな街並み、時代に取り残されたような不思議な雰囲気をもつのが雑司が谷です。そんな街に遺跡があり、発掘調査が進んでいることはなかなか知られていません。しかし、今から500年以上も前の時代である中世の遺跡が存在することが、これまでの発掘調査の成果で判明しています。

2009年6月に実施した発掘調査では、小さな調査区ながらも中世の道路状遺構と、この頃の遺物などが見つかかり、大きな発見となりました。この道路の片側には側溝がついており、道幅は最も古い段階（構築時）で2.5～3mと、乗用車一台が十分に通れるほどの幅です。発掘調査では、道の範囲を徐々に掘り下げていくことで、硬さや土質の異なる路面や新旧の側溝を捉えることができました。この細かな質の違いは、複数



構築当時の道幅は3m程。右側には側溝があります



雑司が谷における中世の道（想定図）

調査地点から線路をはさんだ反対側の、副都心線雑司が谷駅地区でも道路状遺構が確認されています



道路状遺構からの出土遺物は、どれも小さなものばかりですが、重要な情報が詰まっています

回に渡って道路のメンテナンスを行っていたことを示しています。路面は、土を突き固めたようで、非常に硬く締まっていました。その硬さは尋常ではなく、路面を剥がす作業で、手首を傷める作業員さんもありました。それほどの硬度がある、しっかりとした道路だということが分かります。

では、この道はどこにつながっていたのでしょうか。中世遺物が出土していることもあり、確実にこの時期に存在していたことは疑う余地がありません。しかしながら当時の幹線道路であった、いわゆる“鎌倉街道”（面影橋から宿坂に続く道が想定されています）に該当するのかはまだ確証がありません。今では、地上において見ることはできない、また忘れ去られてしまった道。でも、かつては武士が馬で駆けていったのでしょね。

今秋には、東京メトロ副都心線雑司が谷駅の遺跡解説板の展示替えがあります。中世の道も取り上げる予定ですので、お楽しみに！

（高木翼郎）



出土した中世の羽釜

東海地方の土器で、非常に薄作りです。どのような経緯で持ち込まれたのでしょうか



調査地点から南方を望む  
中世にはこの先に鎌倉街道がありました

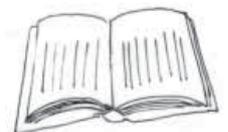


路面の下を掘ると、道路を造ったときの基礎工事の跡が。かなり凹凸があります

## 江戸時代の遺物分類を考えよう

豊島区の遺物分類は、『伝中・上富士前II』（1998）からすでに10年が経過し、分類を見直すこととなりました。としま遺跡調査会では、日々の仕事が終わった後に有志による「遺物分類検討会」という勉強会を不定期に開いています。主に江戸時代の陶磁器類の分類についてに行われ、5月の会では石神裕之氏（慶応義塾大学文学部准教授）を招き、莫大な出土量である江戸時代の遺物をどのように数え、報告していくかを議論しました。会はどなたでも参加できるものですので、興味のある方はぜひご参加ください（現在はメールでのみの連絡とさせていただきます）。今後も継続的に会を設け、新しい分類を模索していきたいと思ひます。

（小川祐司）



## 解説板の清掃も私たちがしています

2009年6月1日。雑司が谷遺跡展示パネルの定期点検に行ってきました。場所は新しくできた東京メトロ副都心線、雑司が谷駅構内です。定期点検ということで毎月の初めに当番が点検に向かいます。一ヶ月間の汚れは私の予想以上でした。さっさと拭いただけでは汚れがのびるだけ。洗剤で拭き落していかないときれいにはならないのです。パネル一枚を拭き終わらないうちに雑巾は真っ黒です。展示場所が地下鉄の階段踊り場なので常に強風にさらされているからなのでしょう、特に汚れがひどかったのが枠の部分です。枠で守られているはずの部分が一番埃の溜まり場になってしまうようです。駅員さんから枠を外す道具をお借りして隅々まで清掃しました。汚れは私の予想以上でしたが、破損や落書きなどされていることもなく、パネルは無事。点検も無事に終わることができました。展示パネルの作成も大変な作業ですが、その後の管理もしっかりしないと展示の意味もなくなってしまうように思いました。私たちがきれいにしている雑司が谷遺跡の解説板を、みなさんぜひ見てください。（月岡千栄）



解説板の位置  
(雑司が谷駅 目白通り側改札)

### ～ 解説板おそうじ絵巻 ～



専用の道具でカバーを開けます



掃除開始！ 隅々まで綺麗にします

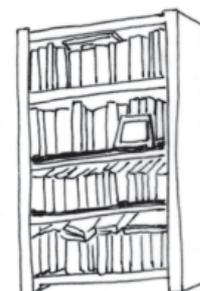


掃除終了！ こんなに汚れていました

## 数多くの図書をご寄贈いただきました

2009年度（2008年10月～2009年9月）に、多くの機関や団体・個人の方から図書をご寄贈いただきました。以下に記して感謝し申し上げます。（五十音順、敬称略）

愛知県瀬戸市歴史民俗資料館、青森県教育委員会、茨城県水戸市、茨城県水戸市教育委員会、追川吉生、大八木謙司、河合敦、共和開発株式会社、岐阜県瑞浪市陶磁資料館、國学院大学伝統文化リサーチセンター、埼玉県大井町遺跡調査会、埼玉県さいたま市遺跡調査会、埼玉県飯能市教育委員会、埼玉県比企郡小川町教育委員会、埼玉県ふじみ野市教育委員会、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所、財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センター、財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所、財団法人東日本鉄道文化財団、笹田朋孝、東京考古談話会、東京都世田谷区教育委員会、東京都世田谷区大蔵遺跡第9次調査会、東京都世田谷区喜多見中通遺跡第9次調査会、東京都世田谷区喜多見清水遺跡第3次調査会、東京都世田谷区桜木遺跡調査会、東京都世田谷区桜木遺跡第3次調査会、東京都世田谷区下神明遺跡第7次調査会、東京都世田谷区堂ヶ谷戸遺跡第50次調査会、東京都世田谷区八幡山遺跡第4次調査会、東京都千代田区教育委員会、東京都千代田区立四番町歴史民俗資料館、東京都豊島区教育委員会、東京都豊島区立郷土資料館、東京都中野区教育委員会、東京都練馬区教育委員会、東京都文京区教育委員会、同志社大学文化情報学会、独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所埋蔵文化財センター、新潟県荒川町教育委員会、新潟県十日町市教育委員会、日本民具学会、橋口定志、福島県いわき市教育文化事業団、山口県下関市立考古博物館、山梨県南アルプス市教育委員会、両角まり、有限会社吾妻考古学研究所、和歌山県有田川町教育委員会



## 染井遺跡 (豊島区 No.5 遺跡)

～ 豊島区最大の複合遺跡・原始・古代編 1 ～

染井遺跡は巣鴨一～五丁目ならびに駒込一～七丁目にかけて広がる、実に 54 万㎡超の面積を誇る豊島区最大の遺跡です。その内容も旧石器・縄文・弥生・古代・中世・近世(江戸時代)と、ほぼ全ての時代を網羅しています。その中で、今回は原始(旧石器～縄文時代)の遺跡についてご紹介致します。(豊島区 4 遺跡は欠番)

染井の地では、今から 2 万年以上前にさかのぼる人類の痕跡が見出されています。当時は氷河期の終わり頃(最終氷期)、獲物となる動物を追いながらの移動生活が行われていた時代です。染井遺跡では、彼らで使用していた道具類、すなわち打製石器(ナイフ形石器・角錐状石器など)や宿営した痕跡(礫群)が発見されており、これは確認される限りで豊島区最古の人類の痕跡です(写真 1)。



写真 1: 角錐状石器(黒曜石)

続く縄文時代では、早期～中期(約 4000～8000 年前)の住居址数軒が発見されています。縄文土器は、これまでに早期～後・晩期と、おおむね縄文時代のほとんどにわたる時期のものが発見されており(写真 2)、染井地域に連綿と人々の生活が営まれていたことが窺えます。さらに、かつて明治時代には染井霊園内の縄文貝塚(染井墓地内貝塚)が知られていました。しかし現在ではその位置が不明となっており、これまでに発見されている縄文集落との関係を探る上でも、今後の再発見が望まれます。



写真 2: 縄文時代早期の住居から出土した土器

こうした旧石器～縄文時代の痕跡は、主に染井霊園周辺から東は JR 駒込駅周辺にかけての地域で点々と発見されています。この地域は、およそ染井遺跡の北辺、豊島区と北区の区界付近を流れる谷田川(藍染川。現在暗渠)を見下ろす台地上にあたります。谷田川の対岸には、北区西ヶ原貝塚(都指定史跡)をはじめとした数々の縄文集落や貝塚が存在していることから、谷田川流域は生活に適した豊かな環境にあったと言えるでしょう。(続く)

(宮川和也)

## がんばれ(株)調査員



～夏の号～



ご好評につき連載が決定しました「がんばれ(株)調査員」。報告書の原稿よりも早くこのマンガを描く(株)調査員に、励ましのお手紙よりもスイカの差し入れを!(笑)。

### 【編集後記】

梅雨なんです。雨がが多いのは私が現場に出ているせいではないんです。でも、連続雨天中止記録(調査会新)をただいま更新中...。(担当: (株))

編集・発行

特定非営利活動法人  
としま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-8-9 巣鴨複合施設 201 号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389@a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス: <http://www.toshima-iseki.org/>

「つたのは通信」の由来: 蔦は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この蔦の葉が周囲の樹木や建物につたい茂るように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。また、染井遺跡を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。

題字: 湯澤和子

ロゴデザイン: 石原幸

イラスト: 黒沼笑美子・千葉弘美

マンガ: (株)